

2019

京都・ミスキモノ



松本実紗さん

宮本佳奈さん

佐谷麻美さん

野田有紀子さん

野田有紀子さん
佐谷麻美さん
宮本佳奈さん
松本実紗さん
にインタビュー

きものは、京都からきものと京都の魅力を全国に発信する役目を担い任期1年間で延べ120回余りの派遣活動を行った。昨年3月、彼女たちが選考された日のインタビューで「これから1年間、京都どきもののPRをしっかりと努めさせていただきます」と抱負を語り、今まで全国各地に出向いて京都どきものの魅力を伝えてきた。その中で人との出会いは貴重な経験となり一回りも二回りも成長してきた2019京都・ミスキモノの4人、野田有紀子さん、宮本佳奈さん、佐谷麻美さん、松本実紗さんに京都・ミスキモノとして派遣活動の感想や思い出、これからのかきもの振興、将来の夢などを聞いた。



佐谷 麻美さん

きものに興味を持つようになつたきっかけは

野田 成人式を迎える際に、祖母が母に贈った振袖を譲り受け、身に付けたことがきっかけです。母が成人式で着た振袖を自分が受け継いだ時、時代を超えて変わらずに着られることや一つひとつの文様に意味があることに他にはないきものならではの美しさを感じました。

一きものに興味を持つようになつたきっかけは

野田 成人式を迎える際に、祖母が母に贈った振袖を譲り受け、身に付けたことがきっかけです。母が成人式で着た振袖を自分が受け継いだ時、時代を超えて変わらずに着られることや一つひとつの文様に意味があることに他にはないきものならではの美しさを感じました。



宮本 佳奈さん

きものを着て観劇に行つたのが

佐谷 きものを着て観劇に行つたのがきっかけです。幼少期より家族で観劇に行く際、よく祖母がきものを着ており、その立ち姿が大変美しく華やかでした。周りを華やかで晴れやかな気持ちしてくれるきものに魅了され、中学生の頃、憧れであつたきものを初めて着付けて貰つて大好きな観劇に足を運んだワクワク感や嬉しさ、景色がいつも違つて見える新鮮な気持ちは今でも鮮明に覚えています。

きものを着て観劇に行つたのが

野田 きものを着て観劇に行つたのがきっかけです。幼少期より家族で観劇に行く際、よく祖母がきものを着ており、その立ち姿が大変美しく華やかでした。周りを華やかで晴れやかな気持ちしてくれるきものに魅了され、中学生の頃、憧れであつたきものを初めて着付けて貰つて大好きな観劇に足を運んだワクワク感や嬉しさ、景色がいつも違つて見える新鮮な気持ちは今でも鮮明に覚えています。

宮本 高校で茶道を、大学で落語を始めたことできものをよく着るようになつたことがきっかけです。きものは着るだけでうきうきとさせてくれますし、本番前に袖を通すと背筋がすっと伸びるような、そんな前向きな気持ちにさせてくれます。着れば着るほどきものを好きになりました。また、私の場合は幼い時に亡くし、大好きだった曾祖母が使っていた和装小物を使つていたので、きものを着ているときは曾祖母を近くに感じることが出来るよう



ファッションセンター会場で作家の先生と

佐谷 きものに描かかれている一つひとつには意味が込められています。この文様には意味が込められています。

遠い存在のものでもないと感じました。正しい着付けであれば、長時間振袖を着ていても疲れることはあります。練習を重ね、今では小紋や浴衣の着付けを自分でできるようになりました。きものを身近に感じる活動をしているからこそできた、嬉しい発見でした。

野田 きものは気軽に楽しめるものだということです。京都・ミスキモノに選んでいただき、振袖を着る機会やきものを着てお出かけすることが増えたことで、きものは息苦しいものでも、遠い存在のものでもないと感じました。

な気がしてうれしかったこともきっかけの一つかもしれません。

松本 七五三、成人式ときものを着て、きものを着る機会が少ないと寂しく思い、遠方から来た友達ときものを着て京都観光をしたことがきっかけだったかと思います。その頃はきものに関する知識もあまりなく、ただきもの着て歩くことが嬉しかったのを覚えています。きものを着て歩いているだけで、いつもみている京都がより鮮やかに、風も柔らかく感じられることに気づき、驚きました。それからきものについてより知識を深めたいと考えるようになりました。

「ミスキモノになつてきものに対する新たな発見はありましたか

宮本 発見ではないかもしれません

が、きものが人と人をつないでくれるようになります。ミスキモノになつて、これまでよりもさらにきものを着て出かけることが増えましたが、きものを着ていると、普段きの為、お出かけや行事に行く際、文様にもこだわつてきものを選ぶことになると実感致しました。



ものに関わらず人に声を掛けられることが多いことに気がつきました。普段は挨拶を交わす程度のよく見かける方、出先であつた方、電車で隣に座ったおばあさん、外国の方など、きものを着ていたことがきっかけで会話ができるという経験をたくさんしました。

松本 京都ミスキモノに選ばれて、きものについて学べば学ぶほど日本文化の奥深さに触れることができました。きものには色々な模様があります。それは寺社仏閣の装飾や小物にいたるまでたくさんものに施されています。それらをじっくり観察し、意味を考えることが楽しく感じられるようになりました。



また、日本の伝統色にも興味を持つようになりました。例えば私たちが水色と呼んでいる色でも、瓶覗色のような薄い色から空色、浅葱色などたくさんの種類に分かれています。古来より日本人の感性はとても繊細で、その中できものの文化が育まれ現在に至るのだ



佐谷 今年は東京でオリンピックが開催されますので、各参加国・地域のオリジナルの生地や染め方を活かしたきものがあつたら着てみたいです。西アフリカの藍染やイギリスの織物生地など…考えただけでもワクワクします。

宮本 たつた一枚のきものから様々な話題に発展しそうですね。

佐谷 雨の日を思いきり楽しめるきものがほしいです。もちろん雨の日でも和傘や雨コートを合わせれば十分にきものを楽しむことが出来ますが、それでも、もしもれてしまふと気を使ふことは多いです。なので、雨にぬれても平気なきものや、少し湿気を含むことで柄が浮き出てくるきものなど、雨の日だからこそ楽しめるようなきものがあつたらぜひ着てみたいなと思います。

ー今、こんなきものがあつたら着たいと思うものはありますか

野田 独創的な発想ではないのですぐ、作り手の方々の思いが見えるきものが欲しいと思います。というのも、きものに込められた意味を知ると、もつときものを素敵に感じられるためです。先日、東洋きもの専門学校が主催するファッショショニードに参加し、生徒さんがデザインし商品化された浴衣を着用してランウェイを歩かせていただきました。デザインの美しさにも惹かれましたが、デザインを担当された生徒さんの努力や、どのようないでデザインされたのかを考えることで、もっともっと魅力的なものに思えました」

ー参加したイベントで印象に残つたものを1・2あげてください。その理由をお願いします

野田 「2020年版 京都きものパスポート」のポスターのモデルを務めた

佐谷 ことです。きもの姿で京都にある該当施設を訪れる特典が受けられる、京都きものバスポートというサービスがあり、そのポスターのモデルを松本さんと一緒に務めさせていただきました。どなたかの目に入り、きものを楽しむきっかけ作りができるかなとワクワクしながら撮影したのをよく覚えています。

宮本 雨の日を思いきり楽しめるきものがほしいです。京都駅をはじめとして京都の街を歩いていると自分が写っているきものパースポーツのポスターを見かけることができますが、その度にとても嬉しい気持になります。

佐谷 どのイベントも印象深く決め難いのですが、佐賀玉屋さんにて行われた京都物産展です。初めての遠方派遣でとても緊張していたのですが、佐賀の皆様が本当に気さくで温かい方ばかりで帰る頃にはとても名残惜しかったのを今でも覚えています。きもの、京都についてお客様とお話を弾み、一期一会、人々の温かさにより多くふれ感

佐谷 謝に満ちた二日間となりました。

宮本 一番印象に残っているのは群馬や長崎での物産展への派遣です。物産展に足を運んでくださった方々と直接いろんなお話をすことができとても楽しかったです。「毎年楽しみにしているの」「おきものきれいね、私も好きなの」「おすすめはなに?」きものや京都を好きでいてくれる方がたくさんいるのだと嬉しく感じるとともに、頑張ろうと改めて強く思いました。

松本 まず印象に残っているのは、京都きものバスポート写真撮影です。カメラの前で自然に振る舞うのが初めてとても難しく苦勞しましたが、同行してくれださっていたスタッフの方々やカメラマンさんが優しく和やかに場を盛り上げてください、無事撮影を終えることができました。京都やきものが好き!きものを着るのはたのし



ー京都歴代のれん展に残つたものをお願いします

野田 「2020年版 京都きものバスポート」のポスターのモデルを務めた

佐谷 ことです。きもの姿で京都にある該当施設を訪れる特典が受けられる、京都きものバスポートというサービスがあり、そのポスターのモデルを松本さんと一緒に務めさせていただきました。どなたかの目に入り、きものを楽しむきっかけ作りができるかなとワクワクしながら撮影したのをよく覚えています。



2019年3月21日 本選考会

いよ！という気持ちが見ている人に伝わるよう終始笑顔で、等身大の自分が出せるよう心がけました。

きました。今でもこの物産展の夢を見
るくらい楽しい派遣でした。仲良くし
ていただいたお店の方にお会いしたく
て京都に帰ってきてからお店にお邪魔
したりもしています。

—若い世代のきもの愛好家を増やすにはどうすればいいと思われますか

野田 まずは私たち京都・ミスさきの
ような、きものを身近に感じられる
人々が気軽にきものを着てお出かけを
したり経験したりすることが大切だと
思います。実際、それまではきものに
興味を示していなかつた友人の一人
が、私の活動の様子を見て、きものを
着る機会を作つたということがあります
した。きものつて楽しいんだよと、世
代が近い私たちのような存在が発信し
ていくことが、愛好家を増やすための
一番の近道かなと思います。

佐谷 きものが眠たままになつてゐる家庭も多いのではないでしようか?是非ともそのきものに袖を通してお出かけやお食事に行つてみて頂きたいと思います。



きものだからといって構えたり堅苦しく考えたりするのではなく、「このきものは同系色の帯がいいかな」「アグセントにこのお色の帯締めを使ってみよう」等と洋服同様にファッショングを楽しんでみては如何でしょうか?そうしているうちに、次回はこんな感じに挑戦してみようと楽しめるようになっていくのではないか?また、自然とお出かけの際も洋見できものが選択の一つとしての存在を見ていくのではないでしょか?また、それを着ますと自然に背筋が伸び、人自身を美しく見せてくれるようなものが本来持つ良さも実感して頂思います。

行ける着付け教室がもつと増えると良いと思います。大きな着付け教室は試験を受けるのに別途お金がかかったりします。きものを仕事にしようとされている人にはできる投資でも、趣味で着られるようになりたいと考えている方には少し敷居が高い気がします。私たちのような学生は着付けレッスンにたくさんのお金をかけることはできません。もっと気軽に行ける教室が各地でせん。増えると若い世代のきものの愛好家も増えれるのではないかと思います。きものは決して敷居の高いものではなく、一昔前まではみんなが着ていたものなのですから、お硬く考える必要はないと思っています。ルールもありますがそれらをよく理解した上で、自分なりに着こなせる若い世代の方々が増えると嬉しいです。

